

第1章 津島岡大遺跡の位置と周辺の地理的・歴史的環境

津島岡大遺跡は、岡山大学津島地区構内に分布する遺跡群の総称である。岡山大学は岡山平野の北辺に位置しており、周辺には著名な津島遺跡⁽¹⁾をはじめとして多くの遺跡が立地している。1997年までの調査によって構内で確認された遺跡群の広がりには、構内西側の一部をのぞく、ほぼ全域に及んでいる。したがって津島岡大遺跡は近接する周辺の遺跡と連続する可能性があるが、南側、東側の一部以外、大学敷地外への広がりを確認するには至っていない。

岡山平野は、中国山地から南流して瀬戸内海にいたる吉井川、旭川、高梁川の三大河川とその支流、小河川の沖積作用により形成されてきた。この岡山市津島一帯は、岡山平野を南流する旭川の西岸に広がる沖積平野の北半を占め、すぐ北側には東西に、半田山、ダイミ山、烏山といった、標高150m前後の小山塊が連なる。この平野は本来、旭川の旧河道やその支流、それらにより形成された自然堤防などの微高地とが入り組んだ複雑な地形をなしていた。

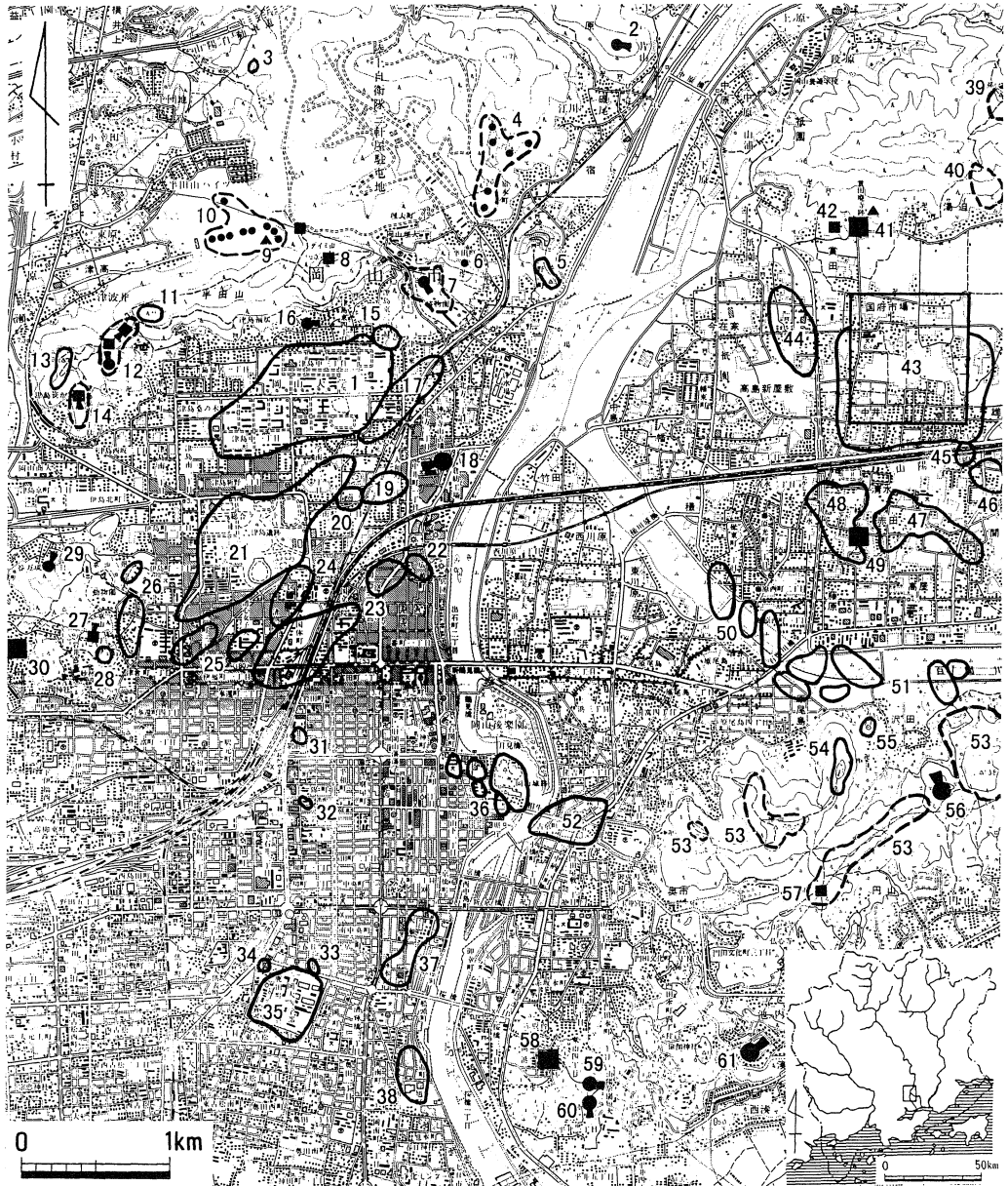
縄文時代以降、津島地区周辺でも、本遺跡に隣接して形成された朝寝鼻貝塚⁽²⁾が知られ、津島岡大遺跡のこれまでの調査においても、縄文後期・晩期の、貯蔵穴・炉跡などをはじめとした遺構群、土器や石器群等の遺物がまとまって検出されている。他にも、旭川東岸地域の百間川遺跡群⁽³⁾では後・晩期の遺構、中期末から晩期の土器群の検出などが知られている。

北部九州で稲作農耕が導入された弥生時代早期には、それまでの狩猟採集経済から農耕社会へと社会構造が転換する。瀬戸内地域においても、津島岡大遺跡に隣接する津島江道遺跡⁽⁴⁾で弥生時代早期段階とされる水田が調査されている。

稲作農耕の開始は、また同時に沖積平野の本格的な土地開発の開始でもある。津島一帯においても、本遺跡の南に隣接する津島遺跡での弥生時代前期の水田耕作遺構の検出事例をはじめとして、同じく東に隣接する津島江道遺跡、また津島岡大遺跡においても本調査地点のほか、第3次、5～7次、11～17次の各地点で弥生時代前期の水田畦畔が検出されている。津島周辺では、微高地縁辺部にかなり広範に小区画水田が帯状に広がっていた状況が復原される。また旭川の対岸に位置している百間川遺跡群⁽⁵⁾でも前期の水田遺構が検出されている。

中期以降、河道の埋没が進み、水田域の拡大や、灌漑機能の向上などによって、生産力が増大したと思われる。そうした生産力の増大を背景に分村化が進み、岡山平野の旭川西岸地域でも津島⁽⁶⁾、南方⁽⁷⁾、上伊福⁽⁸⁾、天瀬⁽⁹⁾、鹿田、津島岡大遺跡などの沖積平野の集落が増加する。

弥生時代後期から古墳時代中期にかけては、津島周辺には有力な首長系譜によって弥生墳丘



1. 津島岡大遺跡(縄文中期末～) 2. 片山古墳(前期) 3. 白壁奥遺跡(古代製鉄) 4. 宿古墳群 5. 妙見山城跡(戦国)
6. 不動堂古墳 7. 一本松古墳(中期) 8. ダイミ山古墳(中期?) 9. 津高住宅団地内遺跡群(製鉄遺跡含む)
10. 佐良池古墳群(後期?) 11. 半田山城跡(戦国) 12. 都月坂墳墓・古墳群(弥生後～古墳前) 13. 鳥山城跡(戦国?) 14. 七つ坑古墳群(前期) 15. 朝寝鼻貝塚(縄文前～後期) 16. お塚(様)古墳(中期) 17. 津島江道遺跡(縄文後期～) 18. 神宮寺山古墳(前期) 19. 北方地藏遺跡(弥生～) 20. 中溝遺跡(弥生～) 21. 津島遺跡(弥生早期～) 22. 広瀬遺跡(弥生) 23. 南方遺跡(弥生) 24. 絵図遺跡(弥生～) 25. 上伊福九坪遺跡 26. 上伊福西遺跡(弥生) 27. 津倉古墳(前期) 28. 妙林寺遺跡(弥生) 29. 青陵古墳(前期) 30. 石井廃寺(奈良～中世) 31～34. 散布地(弥生) 35. 鹿田遺跡(弥生中期末～) 36. 岡山城(戦国～江戸) 37. 天瀬遺跡(弥生) 38. 二日市遺跡(弥生～近世) 39. 龍ノ口山頂古墳群(後期) 40. 湯迫古墳群(後期) 41. 黄田廃寺・窯跡(白鳳～奈良) 42. 唐人塚古墳(後期) 43. 備前国府推定地 44. 備前国庁跡(古代～中世) 45. 雄町遺跡(縄文晩期～平安) 46. 乙多見遺跡(弥生) 47. 赤田東遺跡(弥生) 48. 赤田西遺跡(弥生～古墳) 49. 幡多廃寺(弥生～中世) 50. 百間川原尾島遺跡(縄文中期末～) 51. 百間川沢田遺跡(縄文中期末～) 52. 古京遺跡(弥生中期) 53. 操山古墳群(後期) 54. 妙禪寺城跡(戦国) 55. 操山219号遺跡(旧石器) 56. 金蔵山古墳(前期) 57. 旗振台古墳(中期) 58. 網浜廃寺(奈良～平安) 59. 網浜茶臼山古墳(前期) 60. 操山109号墳(前期) 61. 湊茶臼山古墳(前期)

図1 周辺遺跡分布図

墓、および前方後円（方）墳が連続して造営される。本遺跡の北に連なる半田山山塊には、西から七つ坩古墳群⁽¹⁰⁾、都月坂墳丘墓・古墳群⁽¹¹⁾、ダイミ山古墳、一本松古墳群⁽¹²⁾が、山麓にはお塚（様）古墳群⁽¹³⁾があり、やや東に離れた平野部には神宮寺山古墳⁽¹⁴⁾が築かれる。津島周辺には、これらの造墓に関わった集団の存在が想定できるが、これまでの津島岡大遺跡の各地点の調査においても弥生時代後期から古墳時代前半期の遺構が多く検出されており、このような造墓活動に関わった集団の存在が考えられる。続く古墳時代後期になると、中期までの造墓活動が途絶え、周辺に墳墓が認められなくなるが、本遺跡の第6次、7次調査地点に加え、本調査地点では該期の水田畦畔が確認されている。これらの水田はいずれも畦畔の方向を正方位にあわせたものであるが、本遺跡の南に位置する中溝遺跡⁽¹⁵⁾でも古墳時代後半期に畦畔の方向を正方位にあわせた水田が営まれており、本調査地点の水田畦畔を考えるうえで重要である。さらに、第10次調査地点では、2棟の竪穴式住居跡が検出されている。該期の集落の状況をうかがい知る貴重な成果といえよう。

古代には岡山平野に本格的な条里制が施行される。津島遺跡では条里制の施行に関連する可能性の高い整地土層や畦・溝などが検出され、津島岡大遺跡では本調査地点のほか、第1、6、12次調査地点において坪境として機能したと考えられる東西方向の大溝を検出していることから、津島周辺では条里制の施行はかなり早い段階から行われていたものと思われる。また、本遺跡の東に隣接する津島江道遺跡⁽¹⁶⁾では古代の官衙遺構と考えられる建物群が検出されており、津島一帯は古代の御野郡の中心的な位置にあったと考えられる。

古代の条里制の実施を経て中世に至ると、岡山平野北半では、それ以前の複雑な微地形が完全に解消されるようになる。津島岡大遺跡の各調査地点での状況も、中世以降は一面に平坦な水田が広がった様子を示している。近世にいたって、津島地区を含む御野郡一帯は岡山藩有数の穀倉地帯となるが、1907～8年に、当時の御野郡御野村・伊島村に陸軍屯営用地が造成され、また近年の急速な市街化もあって、かつての田園風景は全く一変することになる。岡山大学津島地区の現在の校地は、戦後、この陸軍屯営地を引き継いだものである。

註

- 1 津島遺跡調査団 『昭和44年度岡山県津島遺跡調査概報』 1969
岡山県教育委員会 『岡山県津島遺跡調査概報』 1970
- 2 鎌木義昌・亀田修一「朝寝鼻貝塚」『岡山県史 第十八巻 考古資料』 1986
これまで縄文時代中期に形成されたとされてきたが、1997年に岡山理科大学が行った発掘調査では縄文時代前期に遡ることが確認された。岡山理科大学教授小林博昭氏教示。
- 3 岡山県教育委員会 『旭川放水路（百間川）改修工事に伴う発掘調査』1～6、岡山県埋蔵文化財発掘調査報告39・46・51・52・56・59、1980～1985
- 4 日本考古学協会静岡大会実行委員会・静岡県考古学会「津島江道遺跡」『日本における稲作農耕の起源と展開

津島岡大遺跡の位置と周辺の地理的・歴史的環境

一資料集一』 1988

この水田遺構については未報告であるため、不明な点が多い。今後正式な発掘調査報告書の刊行を待って検討する必要がある。

- 5 岡山県教育委員会 『百間川沢田遺跡2 百間川長谷遺跡2』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告59 1985
- 6 岡山市遺跡調査団 『南方(国立病院)遺跡発掘調査報告』 1981
岡山県教育委員会 『南方遺跡』岡山県埋蔵文化財報告40 1981
- 7 岡山県教育委員会 『上伊福遺跡』岡山県埋蔵文化財報告14 1984
- 8 出宮徳尚「天瀬遺跡」『岡山県史 第十八巻 考古資料』 1986
- 9 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 『鹿田遺跡Ⅰ』岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第3冊 1998
- 11 近藤義郎「都月坂二号弥生墳丘墓」『岡山県史 第十八巻 考古資料』 1986
近藤義郎「都月坂一号墳」『岡山県史 第十八巻 考古資料』 1986
- 10 『岡山市七つ塚古墳群』七つ塚古墳群発掘調査団 1987
- 13 近藤義郎「岡山県津島の俗称『おつか』と称する前方後円墳についての調査の概略報告」『古代吉備』10集 1988
- 14 鎌木義昌「神宮寺山古墳」『岡山県史 第十八巻 考古資料』 1986
- 15 日本考古学協会静岡大会実行委員会・静岡県考古学会「中溝遺跡」『日本における稲作農耕の起源と展開一資料集一』 1988
- 16 河本清「郡衙」『岡山県史 第二巻 原始・古代Ⅰ』 1992

津島岡大遺跡関連文献

(岡山大学埋蔵文化財調査室)『岡山大学津島北地区小橋法目黒遺跡(AW14区)の発掘調査』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第1集 1985、『岡山大学津島地区遺跡群の調査Ⅱ(農学部構内BH13区他)』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第2冊 1986、『岡山大学構内遺跡調査研究年報4』1987。

(岡山大学埋蔵文化財調査研究センター)『津島岡大遺跡3』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第5冊 1992、『岡山大学構内遺跡調査研究年報10』1993、『津島岡大遺跡4』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第7冊 1994、『津島岡大遺跡6』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第9冊 1995、『津島岡大遺跡5』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第8冊 1995、『津島岡大遺跡7』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第10冊 1995、『岡山大学構内遺跡調査研究年報12』1995、『岡山大学構内遺跡調査研究年報13』1996、『津島岡大遺跡8』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第12冊 1997、『岡山大学構内遺跡調査研究年報14』1997。